

ちば里山カレッジ(次世代リーダー)実施報告書(3)

特定非営利活動法人ちば里山センター

テーマ	第 3 回 SATOYAMA 活動フィールド実習 「持続可能なバイオマス利用」
日時	平成 27 年 1 月 10 日 (土) 9 時～16 時 30 分
場所	君津市 山武市
出席者	受講生 (31 名) 担当理事 (2 名)・スタッフ 講師; (有)丸吉 代表取締役 久我一司 & 久我哲夫 講師: 千葉大学大学院工学研究科 特任研究員 足立真理子 システム活用農家 見学 山武市 たかやす倶楽部 山武市 緑海園芸
内容	9:30～11:00 「間伐材などを原料とした木粉製造工場の見学」 木粉製造工場 (有)丸吉 代表取締役 久我一司 & 久我哲夫 11:00～12:00 君津市から山武市さんぶの森交流センター あららぎ館多目的室へ移動 12:30～13:40. 講義:「都市近郊小規模森林の再生と 地域活性化のための丸太燃料流通システム」 講師: 千葉大学大学院工学研究科 特任研究員 足立真理子 14:00～16:30 システム活用農家 見学 山武市 たかやす倶楽部・山武市 緑海園芸
備考	<ul style="list-style-type: none"> 最初に木粉製造工場(有)丸吉の見学からスタート。製材所の端材や県内山林の間伐材を原料とした木粉を製造しており畜産の敷料やキノコの培地、オガライト製造などを手掛けている。仕事を始めたころは製材所が多かったのがおがくずを集めてくればよかったが、今は製材所自体が少なくなってしまったので、間伐材や不要な材木をわざわざおがくずの形状に加工してそれを原料に製品化しているとのことであった。間伐材利用法として一つの道ではある。 続いて山武市のあららぎ館に移動して足立講師による講義を受けた。 千葉大学大学院工学研究科では現在林野庁の助成事業として、「都市近郊小規模森林の再生と地域活性化のための丸太燃料流通システム」の構築に取り組んでいる。再生可能な新エネルギーは現在いろいろな分野で研究されているが、本システムは森林の整備保全時に発生する間伐材をあまり手をかけずに丸太のまま燃料として使用している点で、里山活動にとって処分に困っている間伐材の有効利用が可能となる。ぜひ良い結果が出て欲しいと思った。 早速現実にシステムを取り入れてモニターをしている農家を見学した。 初めに訪れたのは、たかやす倶楽部。生産者の斉藤さんはもともと有機農法で長年土の研究をしていた方とか、自家製人参の生ジュースを飲ませていただきましたがとてもおいしかった。ここでのシステム活用は基本的なことをしている感じ。丸太の供給は里山活動をしている方にすべて任せているようだった。 次に訪問した緑海園芸では、花卉栽培のハウスの温度管理に丸太くんプロジェクトのモニター装置を活用していた。ここでは、多少の問題がある処が、丸太の燃料の乾燥具合や木の種類によって燃え方に違いが生じるので、温度管理には従来の灯油方式を併用して結構気を使うとのことであった。このような管理の部分では今後も研究が必要だと思った。 丸太の供給に携わっている方にもお尋ねしたところ、間伐材の収集・一定の長さに切る仕事

(炉に入れる関係で1メートルの長さにとろえているとのこと)・利用者への配達等手間がかかるので、収集方法やそのための器具・機器の充実、人件費の件(現在はボランティア精神の部分も多い)、薪の保存場所等まだまだ検討課題があると感じた。
 しかし、今後のためにも有意義なシステムづくりを期待する。
 ・ 燃焼用の炉が韓国製であったのはちょっと残念。設計は日本なので、ぜひ国産で実現できたら、その分野の工業も活性化するのではないかと。

添付資料 (写真)



木を切っておが屑をつくる



材木置き場



オガライト説明



足立講師



システムの説明



あららぎ館バイオマス体験棟



たがやす倶楽部の炉



ハウス内の温風出口



ハウス内 斉藤さんの説明



緑海園芸ハウス横の設備



1メートルの長さの丸太投入



ハウス内の温風排気ダクト